

## [課題演習概要]

## 中学校英語科におけるコミュニケーション能力の育成に向けた授業研究

牟田 知 佳

Chika MUTA

## 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：コミュニケーション能力，方略的能力，コミュニケーション方略，困り感，相手意識

## 1 研究の目的

文部科学省（2017）は，双方向のコミュニケーションを求めている。筆者は，TA 実践インターンシップ実習において，相手の発言が理解できなかったり，自分の意見を伝えられなかったりする学習者の困り感を目にした。そこで，Canale&Swain が提唱する方略的能力（語彙や文法等の不足を補い，何とかして伝えようとする能力）の育成に着目した。何とかして伝えようとする際に用いられる方略（以下 CS）の活用を通して，上記に示した学習者の困り感を解消したい。加えて，コミュニケーションを円滑にするための CS の活用により，相手を意識した会話を実現したい。

本研究は，英会話活動における CS の活用が，相手の発言を理解し，自分の考えの表現への一助となるか否かの検証を行う。また，本活動が，どの学習者にどのように作用したのかの検証を行い，指導方法の改善案を考えることを目的とする。

## 2 研究の計画

福岡県内公立中学校第 1 学年を対象に，英会話活動の実践を計 2 回行う。実践 2 回目の談話記録内容や英会話テスト得点（文法の正確性，会話のラリー数，役立つ表現の活用回数），活動後のアンケート記述内容を基に，学習者の CS の活用がコミュニケーション能力向上に向けて，どのように寄与したかを分析し，指導方法の改善につなげる。

## 3 研究の内容

## (1) コミュニケーション方略（CS）

泉他（2016）によると，CS は，語彙や文法等の

不足を補う補償方略とコミュニケーションを円滑にする達成方略に分類される。本実践では，聞き返しの要求，回避，つなぎ言葉などの補償方略や，応答や話題転換などの円滑に会話するための達成方略を記載した「英会話で役立つ表現集」を配布し，補償方略，達成方略ともに活用を促した。

## (2) 実践内容概要

## 【M2 前期】 令和 3 年 6 月末～7 月末実践

帯活動（全 6 回）

○「役立つ表現集」暗記練習 ○ペアで 2 分間英会話練習



2 分間英会話活動本番

・ネイティブスピーカー（以下 NS）とペアの 3 人で，「自分の好きなもの・こと」というテーマでフリートーク

## 【M2 後期】 令和 3 年 11 月実践

帯活動（全 6 回）

○聞き返しの要求，回避，つなぎ言葉，応答の方略を活用する  
タスク活動 ○3 人称単数の疑問文への応答練習 ○英会話テスト練習



1 分間英会話テスト本番

・NS と一対一で，あらかじめ設定した流れに沿って会話

M2 前期の実践では，英語でのコミュニケーションの仕方や「役立つ表現」（CS）の理解など知識習得が中心で，CS を活用した学習者は少数だった。そこで，M2 後期は，CS 活用場面を認識させるタスク活動を行った。また，CS を活用させるため，話す内容と流れを設定した。特に，英語が全く理解できないと，CS の活用は諦め，沈黙する場合があると考え，使用する文法を絞り，文法指導を行った。最後に，テスト中に，CS の活用回数を随時学習者に示し，活用への意識づけをした。

## (3) 1 分間英会話テスト実践考察

2 学級の平均の約 8 割が少なくとも 1 回は CS を活用しており，今回は活用につなげる活動となったと言える。また，約 8 割の学習者は 2 回以上会

話のラリーが続いていることから、CSの活用はコミュニケーションの継続に効果的であることが考えられる。さらに、活動後のアンケート調査では、約7割の学習者は、「役立つ表現集」への意義を感じていた。どのような学習者がどのようなCSを活用しているのかを調べるために、英会話の談話記録内容を基に、分類、分析を行った。以下は、特に該当人数の多いパターンに焦点をあてたものである。(対象A組、B組学習者合計54人)

①【役立つ表現3回で、文法全解、会話のラリー3回以上】のパターン(該当人数8人/54人)

CSを3回以上活用しているのは14人(54人中)で、その中で会話のラリーも3回以上続いている学習者は13人である。内8人は文法項目全解だった。英語に困り感が少ない学習者もCSを活用し、会話を継続していると言える。

表1 パターン①の学習者の談話記録

※左はNS、右が学習者の発話、下線部はCSを示す。

Is he from Saitama?	Yes, he is.
OK. What does he like?	He likes playing the piano.
Excellent. Question?	What subject do you like?
I like math and Japanese. How about you?	I like P.E.
Me too.	Because I like volleyball.
Oh, very good. Volleyball is fun.	Yes.
Do you like ハイキュー?	Yes, I do. <u>How about you?</u>
...Yes, I do.	<u>Oh, me too.</u>
I like pizza. How about you?	<u>By the way</u> , what food do you like?
Great. What color do you like?	<u>Me too</u> , I like pizza.
Great English. Nice job.	Thank you.

相手を意識し、反応のCSを活用している。アンケート調査には、「たくさん会話ができた」と記述しており、達成感を抱くこともできている。しかし、今回よりも1学期の活動が良かったとも記述しており、英語が得意な当該学習者にとって、今回は物足りなかった可能性がある。時間が長く、自由に会話できる活動も検討する必要がある。

②【役立つ表現1回、文法間違いあり、会話のラリー3回以上】のパターン(該当人数10人/54人)

表2 パターン②の学習者の談話記録

Is he from Tokyo?	No, he doesn't.
What does he like?	He likes dance.
OK. Let see. Question.	What color do you like?
I like yellow.	<u>I see</u> . I like purple.
Me too.	What animal do you like?
I like polar bears. How about you?	...I like...shibainu.
Great.	I like... What subject do you like?
I like math and Japanese. How about you?	<u>I see</u> .
Thank you.	<u>I like</u> ...music.

文法の間違ひがあるものの、相手の質問を理解した上で、自分の意見を伝えられている。一方で、反応の種類が少なく、会話が弾んでいない様子も窺える。この学習者は、相手の発言を理解できる程度の文法力はあるため、自然に相づちができる

まで、やりとりの練習を重ねることで、相手意識をもった会話ができるようになることを考える。

③【役立つ表現0回、文法間違いあり、会話のラリー3回未満】のパターン(該当人数10人/54人)

表3 パターン③の学習者の談話記録

Is she from Okinawa?	No, she...No, she does...No, she doesn't.
What does he like?	She...like cats.
Sorry, one more?	えー...
OK. Question. It's OK.	...

長い時間をかけて応答するものの、文法ミスが見られている。また、質問に答えるのみであり、会話が一方方向となっている。今回のテストとそれに向けた練習はためになったかという質問をしたところ、どちらかといえば当てはまらないと回答しており、当該学習者にとっては、難易度が高いものであった可能性がある。このようなコミュニケーションができるまでに至っていない学習者には、パターンプラクティス活動等、学習した文法を定着させる活動が今後必要であると考えられる。

(4)実践結果まとめ

以上の学習者例のように、CSを3回以上活用している学習者は、相手を意識して、会話のラリーも継続している。一方で、CSの活用回数が3回未満の場合は、会話のラリーは続いたとしても、相手の発言を理解せずに反応をとる、相手への反応が薄い、といった課題がみられる。学習者の実態に応じて、指導方法の改善を行い、今後はCSを活用し、相手を意識した会話を促したい。

## 4 成果と課題

○学習者の様々なレベルごとに本テストのCS活用の有効性の分析を行い、コミュニケーション能力向上に向けた、今後の指導方法を再検討できた。

●文法に課題があり、コミュニケーションができていない学習者は、CSの活用は見られず、困り感が残っていた。この場合は、話す活動より文法指導を優先すべきなのか検証していく必要がある。

## 主な引用・参考文献

- Canale, M. & Swain, M. 1980 Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1(1), 1-47  
 泉恵美子・門田修平 2016 英語スピーキング指導ハンドブック 大修館書店  
 文部科学省 2017 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説外国語編, 22